

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人エムアール会		
事業所名	グループホームグリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1-41 (電話) 011-773-1311		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月10日

【情報提供票より】 (20年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 8日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	26 人 常勤 23人, 非常勤 3人, 常勤換算 22.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り
	3階建ての 1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000~68,000 円	その他の経費(月額)	光熱水・電気代20,500円 暖房費(11~3月) 5,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要 (6月5日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	4	要介護2	8		
要介護3	10	要介護4	5		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.9歳	最低	72歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮岸医院、コア歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームグリーンピアは、札幌市郊外の自然に恵まれた閑静な住宅地に位置する。複数の高齢者施設や障害者施設を運営する社会福祉法人の一事業であり、法人の管理監督下で組織の恩恵とメリットを活かしつつも、ホーム独自の主体的な運営を行っている。3ユニットを有する3階建ての建物は、平成15年設立の真新しい鉄骨コンクリートの堅固な構造で、共有空間はどれもたっぷりとしたスペースをとって、広々として明るい。居室にはクッション床材が貼られて、転倒による骨折事故の予防に大きく役立っている。経験豊かで高い意欲を持った管理者の下、職員の教育が行き届き、信頼関係も厚く、家族の評判も高い。利用者は認知症を感じさせない、穏やかで明るい表情で過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 主な改善取り組みは以下のである。玄関前に掲示板を設置し、広報誌などを掲示して地域にアピールしている。評価に際しては全職員に意義を説明した上で約1ヶ月かけて案を募り、共通理解と活用に努めている。遠隔地の家族には家族連絡帳を送付している。意見箱を新たに設置した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	予め全職員に対して評価の意義を説明し、独自に作成した用紙を配布して各自の意見を、約1ヶ月かけて記入・提出を求め、これをユニットごとの会議で討論して、計画作成担当者がまとめた。この過程で各職員は日常の業務を見直し、問題点を把握する手がかりとして有効に活用している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関ホールに意見箱を新たに設置し、またホーム内の要所に苦情受付の外部機関のポスターを掲示して意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。1週間単位で作成される家族連絡帳には家族の記入欄もあり、自由に意見が記入できるようになっている。日ごろから言いやすい雰囲気を作ることに努め、出された意見は職員で討議し、改善に活かしている。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の夏祭や近隣幼稚園の行事、篠路伝承子ども歌舞伎などに参加すると同時に、法人が合同で行う夏祭、文化祭などの行事に近隣の住民を招いて交流を図っている。連合町内会との付き合いは法人レベルで行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊重を第一に掲げ、利用者の安全と家族の安心、笑顔のある暮らし、地域との協力支えあい、という4項目の、独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内要所に掲示し、パンフレットに掲載し、職員のネームカードの裏にプリントして常時持ち歩くなど、周知に心がけている。業務中やミーティングの折に必要なに応じて理念を引き合いに出し、実践に定着させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭や近隣幼稚園の行事、篠路伝承子ども歌舞伎などに参加すると同時に、法人が合同で行う夏祭、文化祭などの行事に近隣の住民を招いて交流を図っている。連合町内会との付き合いは法人レベルで行っている。	○	地域の町内会や老人会へホーム独自に加入し、共に活動し、交流する関係も構築することを期待したい。また、ごみ拾い、清掃などの日常的な場面での交流も含めてもっと交流の幅を広げたい、との意見もあるのでその努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	予め全職員に対して評価の意義を説明し、独自に作成した用紙を配布して各自の意見を、約1ヶ月かけて記入・提出を求め、これをユニットごとの会議で討論して、計画作成担当者がまとめた。この過程で各職員は日常の業務を見直し、問題点を把握する手がかりとして有効に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ3ヶ月に1回定例で開催され、施設の運営状況、利用者の様子、行事、自己評価、外部評価について討議されている。メンバーは行事にも実際に参加することによって理解が深まり、討議が活発化し、具体的な意見や提案が出されるようになった。	○	会議メンバーの行事参加がよい結果を生んでおり、その機会をもっと広げたいの意向なので、その企図に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人レベルで市や区の担当者との交流は密で、協力関係を築いている。管理者は北区の管理者連絡会議に参加して情報交換している。区の篠路出張所に配置されている保健師との協力関係もできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の広報誌を年に2回、ホーム独自の連絡誌「笑顔」を年に4回プラス増刊号数回を発行している。また、個人別に手書きの家族連絡帳を毎週作成し、来訪時に見せ、あるいは送付している。来訪時面談および電話で個々に合わせた報告をしている。	○	馴染みの職員の異動は家族の来訪時に適宜伝えるだけではなく、「笑顔」など、定型的な連絡でも家族へ報告することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を新たに設置し、またホーム内の要所に苦情受付の外部機関のポスターを掲示している。毎週の家族連絡帳には家族の記入欄もあり、自由に意見が記入できるようになっている。出された意見は職員で討議し、改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動は極力せず、職員の希望を極力聞き取って離職を防ぐ努力をし、馴染みの関係を切らさないよう努めている。離職になったときは、利用者にはお休み中、と告げて自然に忘れるのを待ち、ダメージにならないよう、配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修会や北区研修会に多くの職員が参加できるように配慮し、認知症ケア専門士資格取得の機会を与えている。職場内に学習委員会を設置し、自発的な学習活動を促している。各職員は年に2～3回程度の研修機会を与えられ、受講者は施設内で報告会を開いて成果の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホームによる連絡会で交流を図りながら勉強会を行っている。また、近隣グループホーム3カ所で独自の交流を行い、職員レベルの勉強会などを催している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に先立って訪問し、本人および家族と面談し、理解を深めてもらうと同時に馴染みの関係を作っている。入居当初は一人にしないようにし、状況次第で担当職員がいつでも出て来られる態勢を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活の中で一つの家族としてお互いに協力するような関係を築いている。利用者それぞれの力量に合わせて家事を一緒に行い、また教わったりもする。昔話や戦争の話聞かせてもらったり、利用者から励まされることも少なくない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら意向を表せる人にはその都度話を聞き、表せない人からは日々の会話の中から汲み取ったり、表情や態度から感じ取り、考慮している。「センター方式」を採用するようになって思いや意向の把握はあっさりやすくなった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するための情報収集と分析の方法として「包括式」と「センター方式」とを使い分けている。センター方式では家族にも用紙への記入を依頼し担当者が原案を作成している。ケアプラン会議で介護支援専門員を中心に検討を行い家族に説明をしている。	○	本人本位の介護計画となるよう一人ひとりの状況に応じて、試みとして本人にも介護計画を説明していきたいという意向があり、その実現に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の長期目標を、必要に応じて3ヶ月に移行している。モニタリングを継続することで状況の変化を早期に把握し、家族と話し合いを行い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を活かして日常的な健康管理を行い24時間看護師との連絡が可能である。病院受診の通院介助や理美容院への外出への支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な病院受診は基本的には家族対応であるが家族等の居住地が遠隔地などのために不可能な場合は通院の介助を行っている。利用契約時に重要事項説明書にて説明し同意を得ている。かかりつけ医や希望する医療機関への受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態が重度化した場合は職員間で話し合いを行い、方針を共有している。重度化した場合や終末期のあり方についてのマニュアルを作成している。	○	本人、家族等、医療機関、事業所が終末期のあり方について統一した方針を共有するために、できるだけ早い時期に話し合うことができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は鍵を掛けて保管している。一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮して言葉かけを行っているがトイレの誘導時はできていないこともある。家族等の面会簿はノート式を使用している。	○	面会簿をカード方式に変更することでプライバシーへの配慮を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者の希望に添うよう配慮されているが、仕事の流れと両立することが難しく、一日の流れが職員の側の動きになることを戒めながら対応している。	○	職員体制や業務内容を検討することで一人ひとりの利用者が主体となる生活が実現できるよう、いっそうの改善に取り組みたいとのことなので、その努力に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者に配達を依頼しているが利用者の嗜好に応じて食材を変更している。おしぼりたたみや調理、盛り付け、後片付けなどを一緒に行っている。また一人ひとりの食事動作に応じた言葉かけを行ない職員も同じテーブルで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後に入浴の時間を設けているので1週間に2~3回入浴をしている。入浴を楽しむことができるよう朝風呂や夜間入浴などを検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション委員会を設置し毎日、午前と午後に多彩なプログラムを実施している。一人ひとりの習慣である習字や将棋、鉢物の世話、畑での野菜作りや草花の手入れなどの役割や楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日中、室内で過ごすことがないよう日常的な外出として近くの公園や事業所の裏にある畑や庭に出かけている。冬季は隣接している同一法人の行事に参加しているが、外出の機会は少ない。	○	できるだけその日の希望に応じることや冬季の外出について検討中とのことなので、それによってストレス発散や五感刺激、地域との交流を図るなどの利用者本位の外出支援が実現することを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	幹線道路に面しているため安全に配慮し家族等の同意も得て正面玄関のみ施錠しているが、利用者が鍵を開けることができるので、畑や庭への出入りまで完全に閉ざされているわけではない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、年に2回消防署も参加して訓練を行っている。災害時には隣接している同一法人の守衛に連絡し協力を得られるような体制を整えている。	○	事業所が町内会に加入することや近隣住民に個別に依頼することなどで、地域との協力体制を築いていくことができるよう、期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の栄養士が献立を作成しており、栄養のバランスや食塩量を把握している。「温度板」に体温や血圧なども含めて食事量と水分量を記録し、職員が情報を共有している。一人ひとりの咀嚼や嚥下の状態に応じて調理形態を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や正面玄関に外出時の写真や利用者、職員の顔写真を工夫して飾っている。食堂には3種類のテーブルを配置し、ベランダには洗濯物を干すスペースがある。ソファの横の小上がりには大きなぬいぐるみとテーブル、観葉植物などを置いている。壁には布製の手作りのカレンダーや献立が貼ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クッション床材を使用することで骨折などの事故を予防している。ベット、カーテン、ストーブは備品として用意しており、家族と相談して使い慣れた家具などを身近におくことができるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。